

オノマトペによる共感的表現の 心理的受容と表象

Representation and psychological acceptance
of synesthetic expression with onomatopoeic words

時空間デザインプログラム
13M43035 新谷玲 指導教員 齋藤潮
Environmental Design Program
Ray ARAYA, Adviser Ushio SAITO

ABSTRACT

The purpose of this study is the following two. One is to clarify the psychological acceptance of onomatopoeia representation is due to what factor. The other is to clarify through verification of elements associated with the synesthetic expression and understanding by onomatopoeia, verbal working and non- verbal work interposed psychology in the process of cognition. In this study, I compare the practical usage that is listed in the dictionary and the understandability of synesthetic representation with onomatopoeia.

第1章 序章

1-1 研究の背景

人は環境の中にあつて、環境と相互に影響を及ぼし合っている。人が環境と向き合う時、何を見、何を感じ、何を受け取っているのか。

人は、複数の感覚に刺激を受け、知覚し、対象についてのイメージが認知され、記憶される。そのうち表象として心のうちに再び表れ、表象をもとに表現を行っていると考えられる。

我々の対象についてのイメージは、言語を足掛かりとする働きと、言語の直接介在しない“直感的”あるいは“感覚的”とも呼ばれる働きの双方が複雑に絡み合っていて形成されていると考えられるが、認知から表象へ至る過程は脳内に起こり、この働きを直接観察することは叶わない。これに迫るためには対象と表出した表現、つまりインプットとアウトプットにその手掛かりを求めることになる。

本研究では認知から表象に至る意識の働きを明らかにするべく、日本語におけるオノマトペを扱う。

オノマトペは物が発する音を模倣した擬音語および、ものごとのさまや心理などの実際には音を発しないものを模倣した擬態語によって構成される。これらは恣意的な音声記号の体系である言語のなかにありながら恣意性が低く、指示物との間にアイコンとしての対応関係を結ぶ。アイコンとシンボルという対照的な性格を併せ持つオノマトペには、認知から表象に至る過程に介在する働きを解き明かす手掛かりがあると考えられる。

1-2 研究の目的

本研究はまず、オノマトペが指示物を音によって模倣した

ことばであり、オノマトペから受ける印象は事前に共有され了解された象徴的意味のみに留まらないという点に注目し、オノマトペによる表現の用いられ方と心理的受容のあり方、五感との関連性について既往知見および文献をもとに精査する。これらの差異に着目することで、オノマトペの認知の過程で心理に介在する言語的働きと非言語的働きについて明らかにすることを目的とする。

1-3 研究の位置付け

日本語オノマトペに関する研究には言語学的研究としてオノマトペの音韻的および形態的特徴を明らかにした田守(1993)¹、統語範疇を明らかにした田守(1998)²、今昔物語集から現代に至るまでのオノマトペの語形および意味の変遷を分析した山口(2002)³があり、認知心理学的研究として擬音語の意味成分と音素成分の関連を明らかにした村上(1980)⁴、音素単体の持つクオリアの総和が潜在脳に与える印象を扱った黒川(2007)⁵、オノマトペによる共感的修飾表現の意味理解可能性を扱った矢口(2011)⁶がある。本研究は、オノマトペの心理的受容の実態を表す実験的分析と、過去に実際に用いられた表象の現出の履歴である辞書的語義を比較分析する点で独自性がある。

1-4 研究の構成

第二章では、オノマトペに関する既往研究について整理し、本研究で対象とするオノマトペを纏める。第三章で辞書掲載の語義を整理した上で既往研究の結果と重ね合わせ、語義と知覚の関係を語義形成過程と合わせて把握する。第四章では、第三章で把握した語義と知覚の関係のうち注目すべき差異の認められたものについて発音体感等の概念を適用し説

明を試み、第五章では第三章および第四章で明らかにしたオノマトペにまつわる表象と知覚の関係を基に、心理的受容と表象の関係性を分析し考察する。第六章を結論とする。

第2章 分析対象

2-1 対象とするオノマトペ

本研究では矢口(2011)⁶に準じ次の39語を検証の対象とする。アッサリ、カサカサ、ガチャガチャ、ガヤガヤ、カラカラ、ガンガン、ギトギト、キラキラ、キンキン、クッキリ、コチコチ、コッテリ、サッパリ、ザラザラ、サラリ、ザワザワ、シーン、ジャラジャラ、スケスケ、ズシッ、チカチカ、チクチク、チャラチャラ、ツヤツヤ、ツルツル、ツン、ドンヨリ、ピカピカ、ヒソソリ、プーン、フニャフニャ、フワフワ、ベタベタ、ベチョベチョ、ホカホカ、ホクホク、ボンヤリ、ホンワカ、モヤモヤ (50音順)

なお、これらは楠見(1988)⁷において国立国語研究所発行の分類語彙表により使用率0.014パーミル以上とされた感覚形容語をもとに選出されている。

2-2 検証に用いるデータと扱い

2-1に挙げた39語のオノマトペについて、矢口(2011)⁶における実験結果と辞書に掲載された語義および用例を比較検証する。

対象オノマトペの感覚関連性および修飾表現の理解可能度を評定したこの実験結果は、心に想起された表象が知覚されたオノマトペによって十分にあらわされているとして心理的に受容されるかどうかを示していると考えることができ、これは対象についてのイメージを了解する過程のうち、知覚から認知に至る過程を示している。一方で辞書に掲載される語義はそのことが過去に用いられた表現の履歴、蓄積であり、言語体系の中で既に共有され了解されている象徴的意味を表している。したがって、これらの比較によってオノマトペ表現の事前に共有され了解されている象徴的意味と実際の心理的受容の関係を明らかにすることができると考えられる。

オノマトペを専門に扱った辞書として「擬音語・擬態語4500日本語オノマトペ辞典⁸」、国語辞典として最大規模のものとして「日本国語大辞典⁹」を用いる。

2-3 引用実験の概要

矢口(2011)⁶における実験は日本語を母国語とする被験者にモダリティ・ディファレンシャル法によって、1) 提示されたオノマトペが視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚の五つの感覚にどの程度関連するか7段階で、2) 五感を表す名詞「色」、「音」、「感触」、「味」、「におい」を被修飾語とした各オノマトペによる修飾表現が日本語としてどの程度理解可能であるか6段階で、それぞれ評定させたものである。(表1)^{※1}

第3章 辞書掲載語義

3-1 辞書掲載語義にみる感覚関連

「擬音語・擬態語4500日本語オノマトペ辞典⁸」および「日本国語大辞典⁹」に掲載された各オノマトペの語義と用例を対象のオノマトペについて精査し、各項目の語義について視

表1. オノマトペの感覚関連と共感覚的修飾表現の理解可能度

		感覚関連					共感覚的修飾				
		vison	heari	touch	taste	olfacti	色	音	感触	味	におい
1	モヤモヤ	4.50	1.97	2.20	1.51	2.28	4.54	3.51	4.12	3.66	3.66
2	ホンワカ	4.42	1.94	3.13	2.10	1.90	5.18	4.25	3.68	3.8	3.85
3	ピカピカ	5.50	1.53	2.72	0.83	0.72	5.07	2.98	2.61	1.95	1.85
4	スケスケ	5.61	1.45	1.74	0.52	0.68	3.54	2.90	2.63	2.05	1.83
5	キラキラ	5.61	2.94	1.39	0.92	0.83	5.02	4.49	2.29	2.51	2.02
6	チカチカ	5.72	2.14	0.92	0.78	0.83	5.30	2.93	2.25	2.23	1.93
7	ボンヤリ	5.16	2.42	1.06	1.58	1.71	5.32	4.12	3.85	4.51	3.83
8	クッキリ	5.65	2.39	1.94	1.39	1.20	5.02	4.00	3.27	4.20	3.46
9	チャラチャラ	5.23	3.81	1.58	0.71	1.10	4.18	4.33	2.55	2.25	2.15
10	ドンヨリ	4.89	1.67	1.25	0.61	2.08	5.59	3.61	3.29	3.17	3.80
11	ザワザワ	3.94	5.45	1.77	0.87	0.87	2.80	5.46	3.39	2.34	2.2
12	ヒソソリ	3.94	4.94	0.94	0.58	0.71	3.93	5.00	2.45	2.80	2.43
13	ガヤガヤ	3.77	5.52	0.94	0.68	0.84	3.37	5.76	2.37	2.44	2.00
14	シーン	3.08	5.00	0.86	0.56	1.00	2.24	4.66	1.83	1.78	2.00
15	ガンガン	2.97	4.65	1.84	0.77	0.77	2.90	5.18	2.23	2.50	2.58
16	カラカラ	3.52	4.03	3.23	2.39	1.03	2.53	4.50	2.38	2.80	2.50
17	キンキン	2.44	4.50	2.22	2.33	1.14	3.35	5.38	3.60	3.18	3.05
18	サラリ	3.92	2.23	5.03	3.56	1.61	3.90	3.68	4.83	5.20	3.75
19	ズシッ	3.45	3.10	4.50	1.10	0.77	4.05	4.34	4.85	3.73	2.90
20	チクチク	3.94	1.97	5.58	2.39	1.89	2.88	3.63	5.56	3.07	2.63
21	ベチョベチョ	3.97	2.87	5.50	3.20	1.17	3.24	3.76	5.34	4.20	2.22
22	ホカホカ	3.33	1.25	4.92	3.89	1.92	3.34	2.27	3.83	3.34	3.54
23	コチコチ	3.68	2.45	4.58	1.84	0.84	2.20	4.07	4.44	2.98	1.61
24	コッテリ	3.06	0.97	2.97	5.25	2.64	3.78	2.10	3.11	5.90	4.60
25	アッサリ	3.06	1.32	1.94	5.65	2.55	4.45	3.10	3.60	5.83	4.05
26	ツン	3.22	2.81	3.11	3.69	4.97	2.46	2.66	2.83	3.85	5.39
27	プーン	2.00	3.29	0.84	1.39	4.87	1.83	3.37	1.73	2.05	5.32
28	フニャフニャ	4.50	1.83	5.50	2.28	0.81	2.63	3.32	5.80	3.13	2.24
29	ツルツル	4.92	1.89	5.61	1.86	0.75	3.27	2.9	5.71	3.22	1.93
30	ザラザラ	4.28	2.36	5.61	3.61	1.03	3.85	3.32	5.73	3.63	2.02
31	ギトギト	4.13	1.81	5.06	3.94	2.03	3.98	2.37	5.12	4.66	3.54
32	ツヤツヤ	5.17	1.11	5.42	1.44	0.86	5.46	2.44	4.32	2.27	2.12
33	フワフワ	4.71	2.13	5.48	2.90	1.45	4.27	3.27	5.20	3.90	3.17
34	ベタベタ	4.10	1.52	5.81	3.35	1.29	3.63	2.73	5.95	4.00	2.80
35	ガチャガチャ	4.31	4.83	2.61	1.00	0.94	3.65	5.73	3.40	2.78	2.38
36	カサカサ	3.74	4.39	5.48	1.65	0.55	3.20	4.29	5.54	2.83	1.90
37	サッパリ	4.36	1.25	2.58	5.08	2.50	4.71	2.80	3.90	5.61	4.93
38	ホクホク	4.03	1.32	4.71	4.94	2.35	3.15	2.05	3.23	4.28	3.50
39	ジャラジャラ	4.56	4.89	4.36	1.37	0.83	3.10	4.83	4.53	2.18	2.10

覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚との関連を整理した。(表2)

語義の感覚関連の判定に際しては「続けざまに鳴り響く音」(「がががん」日本国語大辞典)などのように五感による直接的な知覚を示した部分が含まれる際に関連を認めるものとし、「目が、濁って生気が感じられない」(「どんより」日本語オノマトペ辞典)などのように直接的な知覚ではなく対象の「さま」を示す部分には五感との関連を認めないものとした。

また触覚について、一般的に触覚として自覚される範囲には脳科学、神経科学の分野では触覚とともに体性感覚のうち皮膚感覚として教えられる、温度感覚および痛覚についても含めることが適当であると考えられるため、皮膚感覚をもって触覚とした。なお筋や腱ないし関節などにおこる深部感覚と内臓感覚は含まないものとした。

3-2 心理的受容との関係

3-1にて明らかになった辞書掲載語義の感覚関連と、感覚関連度評定値および修

表2. 辞書掲載語義の感覚関連

	視覚	聴覚	触覚	味覚	嗅覚
1モヤモヤ	●				
2ホンワカ	●				
3ピカピカ	●				
4スケスケ	●				
5キラキラ	●	●			
6チカチカ	●		●		
7ボンヤリ	●				
8クッキリ	●				
9チャラチャラ	●				
10ドンヨリ	●				
11ザワザワ	●				
12ヒソソリ	●				
13ガヤガヤ	●				
14シーン	●				
15ガンガン	●				
16カラカラ	●				
17キンキン	●	●			
18サラリ			●		
19ズシッ	●		●		
20チクチク	●		●		
21ベチョベチョ	●				
22ホカホカ			●		
23コチコチ	●		●	●	
24コッテリ	●			●	
25アッサリ					●
26ツン					●
27プーン		●			
28フニャフニャ	●		●		
29ツルツル	●				
30ザラザラ	●	●			
31ギトギト	●				
32ツヤツヤ	●				
33フワフワ			●		
34ベタベタ			●		
35ガチャガチャ	●				
36カサカサ	●				
37サッパリ	●				
38ホクホク	●			●	
39ジャラジャラ	●	●			

飾表現理解可能度評定値の関係を整理した。(表3) 評定値はそれぞれ4.00をしきい値とし4.00以上を関連あり4.00未満を関連なしとした。簡単のため〔辞書掲載語義の感覚関連, 実験における感覚関連度, 修飾表現理解可能度〕が〔有,有,有,〕または〔無,無,無〕となるオノマトペと五感の組み合わせを“全て一致”、〔有,無,無〕となるものを“理解不能A”、〔有,無,有〕となるものを“理解不能B”、〔有,有,無〕となるものを“理解不能C”、〔無,有,有〕となるものを“語義外の関連A”、〔無,有,無〕となるものを“語義外の関連B”、〔無,無,有〕となるものを“語義外の関連C”と表記する。

表3. 辞書掲載語義の感覚関連、感覚関連度評定値と修飾表現理解度の関係

	視覚	聴覚	触覚	味覚	嗅覚
1 モヤモヤ	全て一致	全て一致	語義外の関連C	全て一致	全て一致
2 ホンワカ	語義外の関連A	語義外の関連C	全て一致	全て一致	全て一致
3 ビカビカ	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
4 スケスケ	理解不能C	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
5 キラキラ	全て一致	理解不能B	全て一致	全て一致	全て一致
6 チカチカ	全て一致	全て一致	理解不能A	全て一致	全て一致
7 ボンヤリ	全て一致	語義外の関連C	全て一致	語義外の関連C	全て一致
8 クッキリ	全て一致	語義外の関連C	全て一致	語義外の関連C	全て一致
9 チャラチャラ	語義外の関連A	理解不能B	全て一致	全て一致	全て一致
10 ドンヨリ	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
11 ザワザワ	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
12 ヒソソリ	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
13 ガヤガヤ	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
14 シーン	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
15 ガンガン	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
16 カラカラ	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
17 キンキン	理解不能A	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
18 サラリ	全て一致	理解不能A	全て一致	語義外の関連C	全て一致
19 スシッ	語義外の関連C	理解不能B	全て一致	全て一致	全て一致
20 チクチク	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
21 ベチよべちよ	全て一致	全て一致	語義外の関連A	語義外の関連C	全て一致
22 ホカホカ	全て一致	全て一致	理解不能C	全て一致	全て一致
23 コチコチ	全て一致	理解不能B	全て一致	理解不能A	全て一致
24 コツツリ	理解不能A	全て一致	全て一致	全て一致	語義外の関連C
25 アッサリ	語義外の関連C	全て一致	全て一致	語義外の関連A	語義外の関連C
26 ツン	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
27 ブーン	全て一致	理解不能A	全て一致	全て一致	全て一致
28 フニャフニャ	語義外の関連B	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
29 ツルツル	理解不能C	理解不能A	全て一致	全て一致	全て一致
30 ザラザラ	理解不能C	理解不能A	全て一致	全て一致	全て一致
31 ギトギト	語義外の関連B	全て一致	語義外の関連A	語義外の関連C	全て一致
32 ツヤツヤ	全て一致	全て一致	語義外の関連A	全て一致	全て一致
33 フワフワ	語義外の関連A	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
34 ベタベタ	語義外の関連B	全て一致	全て一致	語義外の関連C	全て一致
35 ガチャガチャ	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致
36 カサカサ	全て一致	全て一致	語義外の関連A	全て一致	語義外の関連C
37 サッパリ	全て一致	全て一致	全て一致	全て一致	語義外の関連C
38 ホクホク	語義外の関連B	理解不能A	語義外の関連B	全て一致	全て一致
39 ジャラジャラ	理解不能C	全て一致	語義外の関連A	全て一致	全て一致

3-3 心理的受容との関係の分析

辞書掲載語義と心理的受容の関係について分類ごとに語義形成過程および受容を阻害する要因の観点から分析を行う。

3-3-1 語義と心理的受容が完全に一致するもの

びかびか、どんより、ざわざわ、ひっそり、がやがや、しん、がんがん、からから、ちくちく、つん

以上の10語は五感すべての項目について有無が一致した。これらはそれぞれ特定のひとつの感覚のみとの関連が認められ、特定の感覚に関する表現に特化したオノマトペである。擬音語としての用法のみを持つオノマトペの多くが含まれた。

3-3-2 辞書掲載語義が心理的に受容されないもの

すけすけ、きらきら、ちかちか、きんきん、ほかほか、こちこち、ぷーん、つるつる、ざらざら

以上の9語には語義外の関連が認められず、また感覚と関連する語義が実験的には認知されていない項目が含まれている。これらのオノマトペの語義が実験において理解されなかったことには以下の要因があることが推察される。

・【きらきら】(該当項目: 聴覚)

「笑う声を表す語。けらけら。きやあきやあ。」⁹⁾とされ袂衣物語の用例が掲載されている。オノマトペは長期的には濁音化や長音化などの音韻的变化や、音の近いオノマトペに吸収・統一されることによって原形のオノマトペが失われることが知られており³⁾、現在では笑う声を擬音語としての『きら

きら』は『けらけら』に吸収・統一された可能性がある。

・【こちこち】【ぷーん】【つるつる】【ざらざら】(該当項目: 聴覚) いずれも音を直接模倣した擬音語としての語義が記載されている。実験においてオノマトペと感覚名詞はいずれも共通して「～した」という助詞で接続されて刺激語として用いられているが、これは擬音語を音そのものに対して用いる場合には文法上適切ではない。

3-3-3 語源および形成過程が明らかなもの

もやもや、あっさり、つやつや

以上の3語はそれぞれ「靄」「浅」「艶」を語基とし、これらがオノマトペにおいて典型的な音韻形態へと変化することによって形成されたと考えられる¹⁰⁾。これらの語の理解には語基のもととなったことばによる象徴的意味が介在している可能性がある。

3-3-4 抽出された語群

ほんわか、ぼんやり、くつきり、ちゃらちゃら、さらり、ずしっ、べちよべちよ、こつてり、ふにゃふにゃ、ぎとぎと、ふわふわ、べたべた、がちゃがちゃ、かさかさ、さっぱり、ほくほく、じゃらじゃら

以上の17語は“語義外の関連”に該当する項目を含み、辞書掲載の語義と関連がない感覚についても心理的受容が示されているが、形成過程等からは説明がつかない。これらは第4章で扱う。

3-4 辞書掲載語義と心理的受容に関する考察

3-4-1 理解可能性

辞書掲載語義と心理的受容の比較検証の結果48項目について差異が認められた。前者は既に意味の了解されたシンボルとしての言語の性状を示し、後者はシンボルとしての対応関係の他に表象とオノマトペの間のアイコンとしての対応関係を内包しており、これらに差異が認められ、さらには“語義外の関連”が見られたことは、日本語オノマトペがシンボルとしての言語の意味の範疇を超えてアイコンとして我々の知覚に作用するという指摘を裏付けるものである。

3-4-2 心理的受容と表象

辞書掲載語義の感覚関連と、感覚関連度評定値および修飾表現理解可能度評定値の関係において、“語義外の関連B”に該当するものが視覚について5項目、触覚について1項目、他の感覚には0項目認められた。これは実際には視覚に関して用いられず、視覚イメージを説明することができないオノマトペであっても、オノマトペが視覚以外の身体的経験を象徴しているものとして心理的に受け入れられた際にはその身体的経験の際に伴った視覚的なイメージを喚起している可能性を示していると考えられる。

第4章 関連要因の分析

4-1 発音体感の整理

オノマトペが音による象徴のことばであることから「オノマトペを構成する音そのものがより身体的な各感覚に紐づけられており、音の感覚が他の身体的知覚を喚起している」という仮説に基づき、第3章で抽出した語義と異なる共感的

